

# 富山小学校だより



No. 21

## 学校評価について

毎年、本校の教育活動や子ども達の様子等をふりかえり、良い点や問題点、改善点等について検討しています。そして、今後、特に次年度へ向けての学校教育に役立てるようになっています。これを、学校では『学校評価』と呼んでいます。



私達職員による評価を「自己評価」と呼んでいます。保護者の皆様には学校へのアンケートという形で、貴重なご意見やご感想をいただきました。保護者の皆様へは、そのアンケートの結果や対応等について、文書でお知らせしております。

また、子ども達には、学期ごとに学習や学校生活等についてアンケートをとっています。そして、保護者の皆さんや子ども達のアンケートの結果を、自己評価をする時の資料としています。

私達職員による自己評価の結果を客観的に評価してもらい、保護者の皆さん・地域の皆さんと学校との連携をより深め、学校教育の改善をするために、「学校関係者評価」というものがあります。学校から委嘱をしている「学校関係者評価委員」の皆様は、2月19日（日）にお集まりいただき、第2回学校関係者評価委員会を開催しました。その会で、今後の学校経営、教育活動の推進に、大いに参考となるご意見を頂戴いたしました。

今回の学校だよりでは、以上の学校評価の結果や今後の対応等について、一部を紹介いたします。保護者の皆様、地域の皆様、関係諸機関の皆様、今後とも、本校教育に対して、ご理解とご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願いいたします。

### 【「自己評価」より】

○子ども達は真面目によく頑張っています。ただし、各種行事等で、教師主導になってしまわないように、子ども達の主体的な活動がもっとできるように工夫していきたいです。また、教師の指示だけでなく、子ども達にしっかりと考えさせる時間を確保したいです。

○学校での目標が多すぎるので、生活目標や委員会の目標を一本化します。生活目標も今まで月ごとに設定していましたが、もっとしぼったものにします。

○児童会のスローガンに向かって、学級や委員会で取組ができ、また、学校で問題だと思われることについて、児童集会をもって対応できたりして良かったと思います。

○富山町民体育大会で、応援合戦を取り入れたのは良かったと思います。次年度もぜひ取り組みたいです。

○行事については、校内行事も校外行事も目標を達成できていると考えます。特に、大田



市小・中学校連合音楽会での「富山田植えばやし」の発表が大変良かったと思います。  
○今後、校舎回りの環境美化、植木の管理（剪定等）、資料室や倉庫などの整理整頓や清掃、学校の備品の点検、整理、廃棄など、職員で協力し合って、計画的にもっと作業を進めていく必要があると考えます。

### 【「子ども達のアンケート」より】

「学校のこと」「勉強のこと」「生活のこと」についての設問の結果をふまえ、指導に役立てています。全体的には、肯定的な回答が多く、特に、「富山小学校は楽しいかどうか」の設問の結果が良かったです。しかし、「授業中によく発表するかどうか」と「困ったことがあったら、相談できる友達がいるかどうか」の設問は、他の設問よりも否定的な回答がありますので、今後の対応が必要です。



ここで、全体的な傾向も大切ですが、一番大切にしているのは、子ども達一人一人の結果とそれに対する対応です。

### 【「保護者の方からのアンケート」より】

○「学校に関するもの」と「保護者自身に関するもの」についてのいろいろな設問で、A（よくあてはまる：4点）B（あてはまる：3点）C（あまりあてはまらない：2点）D（あてはまらない：1点）E（よく分からない：配点なし）という評定をしてもらいました。

1点から4点までの点数を設定したところ、平均点は、どの設問も中間の2.5点よりも高く、肯定的な評定が多かったです。

○「いろいろな行事があつてよい。水泳も体操も子ども達が積極的に参加している。子ども達は楽しい学校が送れている。」というようなご感想や、「朝波小との交流でたくさん子ども達と一緒に活動してほしい。朝波小と一緒にできる行事などを計画してほしい。」などの要望もいただきました。

### 【「学校関係者評価」より】

自己評価について、学校関係者評価をしていただきましたが、全体的には肯定的な評価であり、ありがたく思いました。ご意見の中から、一部を紹介します。

○行事の時に、子ども達はたくさんの方の前で、よく手をあげて発表しています。また、小さな学校なので、代表として挨拶をする機会が多いと思います。

○自己評価に、「研修がほとんど行われていない。」という内容がありましたが、校内研究（学校図書館活用教育）や各種出張による研修は続けられています。ここで言う「研修」というのは、「自主的な研修」という意味で、その「自主的な研修」をする時間が、なかなかとれない現状だと理解します。

○無理をしてノルマ的に研修を計画していくのではなく、短い時間でも有効に実施することが大切であるし、学校で子ども達と接していくことそのものも研修になると考えます。



本年度も本校の卒業生である〇〇〇〇様（東京都在住）から、今年の干支にちなんだ色紙を頂戴しました。とてもかわいらしい「辰の色紙」（〇〇様 作製）を、学校図書館に掲示させていただきました。

ご披露申し上げます。本校のことを、子ども達のことを大切に思っていていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

